

科目名		設計製図 A				
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)		建築製図の基本から学びます。建築業界での基本の木造住宅に必要な図面を読み取ることができ、テキストに沿ってトレース(書き写す)する事ができる様になる。図面を書くことにより、建築構造の各所名称も同時に覚えていく事を目的とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①初学者の建築講座 建築製図第3版(市ヶ谷出版)				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	製図の基本-1 ①各種製図用具の名称・役割・使い方 ②平行定規の扱い方 ③図面の種類や図面の意味線の引き方			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、課題等で使う道具の役割を説明。 ①～②の項目を理解し適正に使用することができる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
2	製図の基本-2 ①文字の練習 ②線の練習			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
3	配置図兼1階平面図、2階平面図-1 ①平面図の概略。 ②敷地境界線→1階壁中心線→2階壁中心線→柱→壁細線→開口部までをテキストに沿ってトレース。			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
4	配置図兼1階平面図、2階平面図-2 ①壁仕上げ→建具、 ②サッシ仕上げ→設備、 ③階段関係までをトレース。			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～③の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
5	配置図兼1階平面図、2階平面図-3 ①床仕上げ→外交仕上げ→寸法・名称の記入			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
6	断面図、立面図-1 ①断面・立面の概要。 ②基準線、壁の中心線→開口部階段の記入			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
7	断面図、立面図-2 ①屋根・壁天井→開口部の仕上げ			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
8	断面図、立面図-3 ①各種仕上げ→寸法・名称記入完成。			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
9	基礎伏せ図・1階床伏せ図-1 ①基礎・伏せ図の概要。 ②中心線→布基礎・フーチング下書き→土台・柱の下書き			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
10	基礎伏せ図・1階床伏せ図-2 ①束石→土間コン・アンカー位置→大引き・火打ち・根太→各種寸法・名称仕上げ記入			方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題の期限内提出を基本とし、その上で図面の仕上がり具合や授業態度を含めた平常点で評価します。 課題評価80% 平常点20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)と				建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため。基本を固め、演習を繰り返すことでつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。		
実務経験教員の経歴		1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。				